

地域産業の担い手育成プロジェクト（水産分野）

平成21～22年度

「水産王国境港の人材育成プロジェクト」

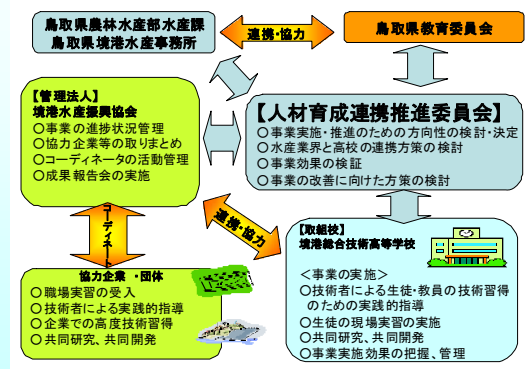
事業実施機関 鳥取県教育委員会 社団法人境港水産振興協会
連携省庁 水産庁
取組校 鳥取県立境港総合技術高等学校

<<事業目標>>

礼儀などの基本的な生活習慣と水産業界における専門性を身に付け、地元水産業界で自信と誇りを持ってたくましく働いたり、大学の水産学部等に進学して学び続けたりすることができる資質を養い、いずれの場合も将来は地元水産業界を担う人材を育成

<<事業の概要>>

鳥取県の漁業・水産業界の新しい担い手となる人材を育成・確保することを目的に、水産学科を設置する境港総合技術高等学校と地域の漁業・水産業界、試験研究機関、行政が連携し、水産学科に学ぶ高校生の現場実習や企業との共同研究、技術者による実践的指導等の取組を行う。また、これらの取組を通して高校生が地元の水産業界へ就職できるシステムの検討を行い、水産学科に学ぶ生徒が将来に希望を抱きながら水産業界について学べる環境を構築する。



<<生徒の企業実習>>

内容：海洋科では乗船しての沿岸漁業実習や水産試験場の見学、食品科では地元水産加工企業でのインターンシップや工場見学を実施した。

- ①沿岸漁業体験実習（定置網）（海洋科）
 - ・ 定置網漁業の特徴や操業方法を学習
 - ・ 海洋科1年全員対象 平成21年度は荒天のため中止
- ②沖合漁業実習（海洋科）
 - ・ 日本海の沖合漁業について、巻き網船団に乗船して実習
 - ・ 海洋科3年1名 5日間 平成21年度は3年1名 3日間
- ③職場体験実習（食品科）
 - ・ 職業意識を育成するため10日間の水産関連企業でのインターンシップ
 - ・ 食品科2年生全員対象 平成21年度は5日間
 - ・ 食品科2年生2名は5日間インターンシップを追加実施（合計15日間で体験）
- ④現場実習（食品科）・地元水産加工企業について理解を深めるためのインターンシップ
 - ・ 食品科3年4名 5日間のインターンシップ

成果：①地元企業や地元沿岸漁業への興味・関心が高まった。

②生徒の勤労観・職業観が一層高まった。



<<技術者等による学校での実践指導>>

内容：海洋科では地元の漁業の実態や漁ろう及び航海計器の取扱いについて、食品科では食品の安全管理や氷温技術について、学校内で企業技術者等から直接指導を受けた。

海洋科6講座、食品科6講座を実施。講師を派遣した企業等11社。

成果①生徒の企業実習の導入として実施し、教育的効果の高い実習につながった。

②学ぶ意義や地域からの期待の話もあり、地元就職の動機付けとなった。



<<教員の高度技術習得>>

内容：教員を対象として、高度な技術・技能を企業で習得し、学校での指導に反映させる。

- | | | | |
|-------------------|----|--------|----|
| ①沿岸漁業での高度技術習得 | 1名 | 平成21年度 | 1名 |
| ②漁ろう及び航海計器の高度技術習得 | 4名 | 平成21年度 | 4名 |
| ③食品微生物検査技術の習得 | 2名 | 平成21年度 | 2名 |
| ④高度密封技術の習得 | 2名 | 平成21年度 | 2名 |

成果①二重巻締の原理等を学び、「水産食品製造」の缶詰分野の教科指導に役立った。

②最新計器の構成と取扱いを学び、生徒が理解しやすい教材を作成した。



<<その他の活動>>

内容①地元企業との共同研究

地元水産物を利用した食品開発を実施し、アジの落とし身を活用した「あじあん焼き」を試作

②アンテナショップ試験販売

東京の「食のみやこ鳥取プラザ」で「赤貝味付缶詰」を試験販売

③中海の調査

中海のミズクラゲと水質汚染を調査 平成20年から実施

④美保湾の魚礁調査

美保湾の天然魚礁と人工漁礁を調査

成果 企業の方や専門家と一緒に実習することで、現場の雰囲気等を学ぶことができ、研究の成果については発表会等をとおして地元へ情報提供することで、生徒の自己肯定感が高まった。



<<連絡先>>

鳥取県教育委員会事務局（高等学校課）

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目271番地

電話：0857-26-7786 FAX：0857-26-0408 URL：<http://www.pref.tottori.lg.jp/kyouiku/>

社団法人境港水産振興協会

〒684-0034 鳥取県境港市昭和町無番地流通会館内

電話：0859-44-6668 FAX：0859-44-6740 URL：<http://www12.ocn.ne.jp/~suisan/>